

習志野にある

雲龍水(龍吐水)ってなんですか？

1ページの写真は庭先で
実際に水をだしてみているところ。
放送大学附属図書館に提供して
いただきました。

この 素朴な疑問

習志野にある「雲龍水」って何かご存じですか。
龍の形の置物？ひと口飲めばたちまち…の靈験あらたかな水？
いえいえ、これは江戸時代から明治時代にかけて使われていた
消防ポンプです。

雲龍水はどんな働きをしていたのでしょうか。習志野にあるの
はどうして。そして、それはどこに行けば見られるのでしょうか。

雲龍水は木製の頑丈な水槽に水を貯
め、左右に長く伸びた腕木を上下させ
て水を噴出させるものです。

その様子が龍が水を吐く姿に見える
ことから「龍吐水」と名づけられました
た。しかし、消防ポンプとしての力は
強くなかったため、改良されたものが
「雲龍水」と名づけられました。

それでも直接、完全に消火するほど
のパワーはなかったということですが

燃え広がるのを食い止めるのには役
立っていたようです。

また、江戸時代の消火方法は火がそ
れ以上に燃え広がらないように周りの
建物を取り壊す「破壊消火」でしたの
で火消したちは鳶口や刺股を持ち、火
の粉を浴びながら活動しました。その
火消したちが着ていた刺子の半纏はんけんに水
を含ませるためにも、雲龍水は使われ
ていました。



習志野にある雲龍水は、習志野市防
災協会が「発足50周年記念事業」の一
環として平成21年に約300万円かけ
て復元製作したもので、「消防の歴史を
学び、消防人の心意気を今に伝えるこ
とにより、防火への関心を持ってもら
いたいとの願いを込めて」作られたと
いうことです。

現在、中央消防署の一階に展示して
あります。

ここにはもう一基展示されていま
す。これは譲り受けて所蔵している古
いものですが、まだまだ健在で、昨年
11月東京ドームで開かれた「消防団1
20年・自治体消防65周年記念大会」に
は、習志野から2基そろって参加、満
員の参加者に放水を披露しました。

||上の写真、および次ページの写真||

江戸時代の習志野でも「龍吐水」が
使われていたということが『習志野市
史』に載っています。

鷺沼の医師であった渡辺東淵(とう

えん)という人が『渡辺東淵雑録』と呼
ばれる古文書を残していて、それには
文政7年(1824)から安政6年(1
859)の36年間に渡って、近隣の村々
の出来事が記録されているのです。

その中の天保10年(1839)の項に
「九月中旬 龍吐水 求ル 村中ニテ
二丁 代巻朱遣ス」

とあります。

「鷺沼村で龍吐水を二丁求め、代金を一
朱払った」という記述です。

一朱は一両の16分の1なのであまり
高価ではなく、「二丁」という数え方か
ら小型の水鉄砲タイプのポンプだった
と考えられるとのこと。

雲龍水は江戸中期の享保年間(17
16~1736)にオランダから渡来
したという説と、近江大塚田中久重の
発明という説がありますが、いずれに
しても東淵さんの時代には、広く出ま
わっていたに違いありません。





市民まつり「きらっと」で



みんな大好き

雲龍水

毎年開かれている市民まつり「習志野きらっと」や消防・救急フェアに雲龍水も参加。子どもたちの人気のマトです



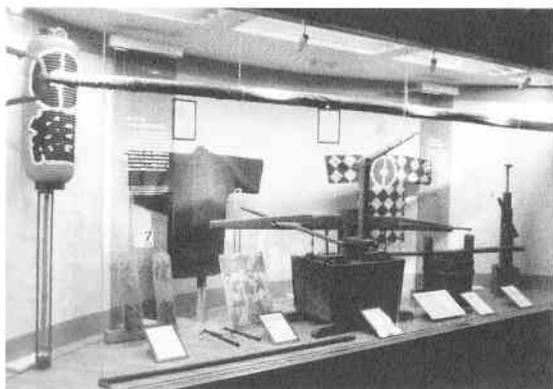
「消防・救急フェア」で

東京消防庁 消防防災資料センター 消防博物館



大名行列に龍吐水も……

東京消防庁消防博物館には消防ヘリコプターや最新の消防機器・装備などが展示されていて子ども連れでも楽しめます。
「消防の変遷」、「消防の夜明け（江戸の火消）」のフロアには龍吐水の展示やジオラマもあります。



町方の火消のコーナー

- ・所在地 東京都新宿区四谷3・10 東京メトロ丸ノ内線「四谷3丁目」駅2番出口直結
- ・電話 03・3353・9119
- ・開館時間 午前9時30分〜午後5時
- ・休館日 毎週月曜日（国民の祝日にあたる場合は翌日）、12月28日〜1月4日、館内整備日
- ・入館 無料

2013年11月25日 東京ドーム

消防団 120年 自治体消防 65周年記念大会



全国から消防団員、消防署員が参加して開かれた記念大会。「腕用ポンプの部」には習志野からの2基を含む10基が出場。炎に見たてた赤いボール目がけて一勢に放水する珍しい光景は圧巻で、東京ドームを埋め尽くした参加者から盛んな拍手が送られていました。